



インテリアデザイン研究室

Interior Design Lab.

大石 容一

OISHI, Yoichi / Professor

椅子と共に暮らす

Living with Chairs

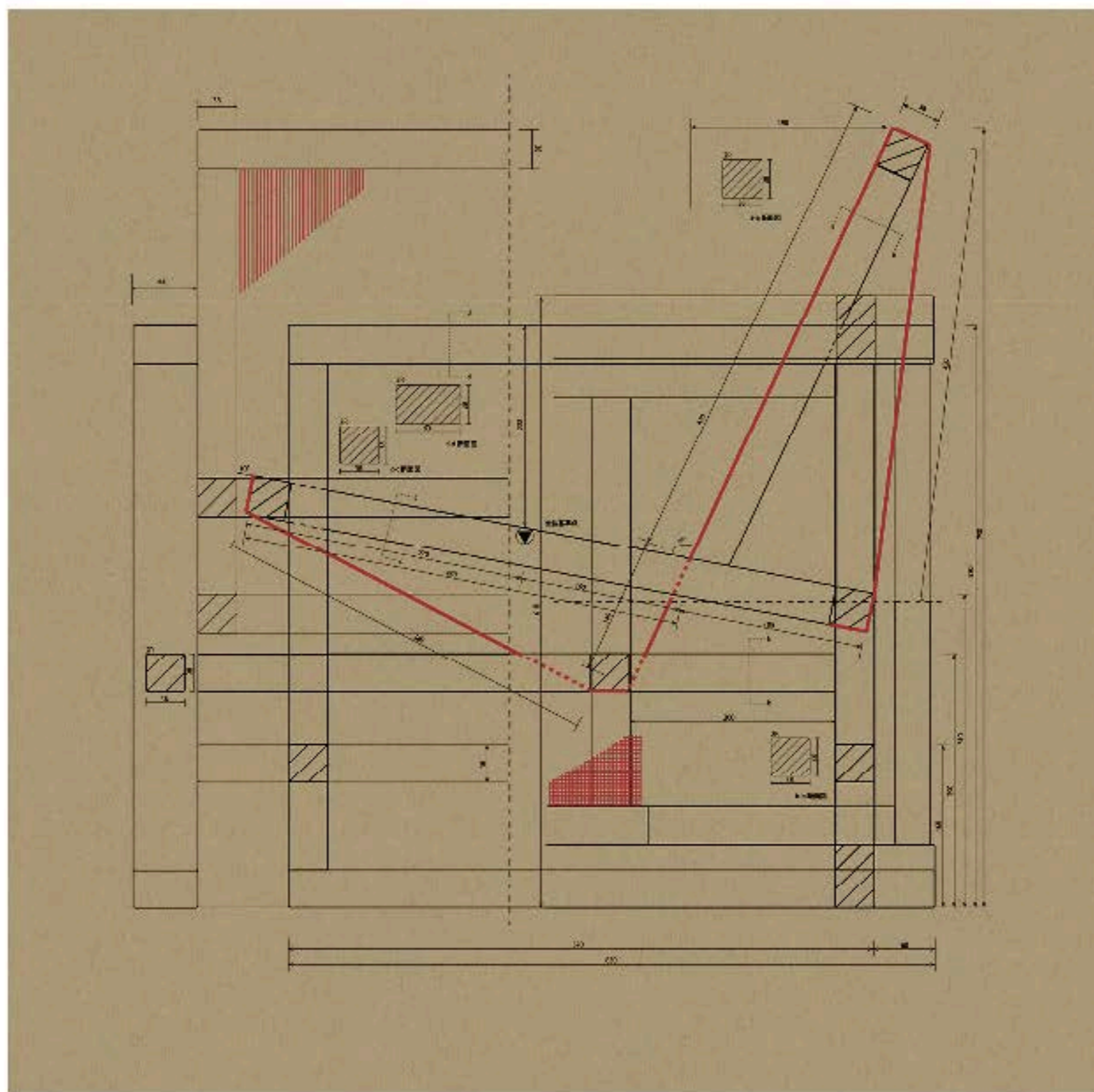
「感じ良い暮らしの提案」

人々は多くの時間を座って過ごしている
家族との他愛のない会話
音楽や映画を楽しむ
何気ない時間を美しい時間へ
感じの良い暮らしが日々の暮らしに。
椅子全体のフォルムはスクエアで
シンプルなものにすることで、
様々なライフスタイルに馴染むように構成した。
座面の角度は115°、座面をペーパーコードで
編むことで、時が経つにつれ、
自分に馴染んでいくことを想定している。
また、座と背を交差するように編むことで
ヒモの棚が出来、座りながらにして
小説や雑誌などを簡易的に
収納できるスペースが生まれる。
自分が座る椅子を、自分でデザインし、
感じ良い暮らしをテーマに制作しました。



生駒 孝暉

IKOMA, Koki



五感で楽しむ金沢文化

Kanazawa Culture to Enjoy with the Five Sences



加賀百万石と称され安土桃山時代から文化の継承が続く金沢には、兼六園や21世紀美術館といった多くの名所が点在し、現在の魅力あるまちづくりを実現している。中でも、伝統工芸品である「九谷焼」、茶屋街で重宝された「和菓子」の文化に着目し、「五感で楽しむ」をコンセプトとしたミュージアム&カフェを設計した。

施設は中庭を中心に、カフェ、ギャラリー、ショップを回遊するプランとし、地下には多目的空間を設けた。

ギャラリーからは移築された登り窯をガラス越しに臨み、その奥にある森林との心地よい関係性を感じることができる。

陶芸家、北王子魯山人が残した「食器は料理のきもの」という言葉がある。金沢という土壌が伝統工芸と食文化を培ってきた歴史を鑑みた時、政治や芸術、人々の暮らしが町のかたちを醸成させ現在の地位が確立された。魯山人の残した言葉が現代にも息づく施設として斬新かつ細やかな空間デザインを考えた。

井手 澪

IDE, Mio



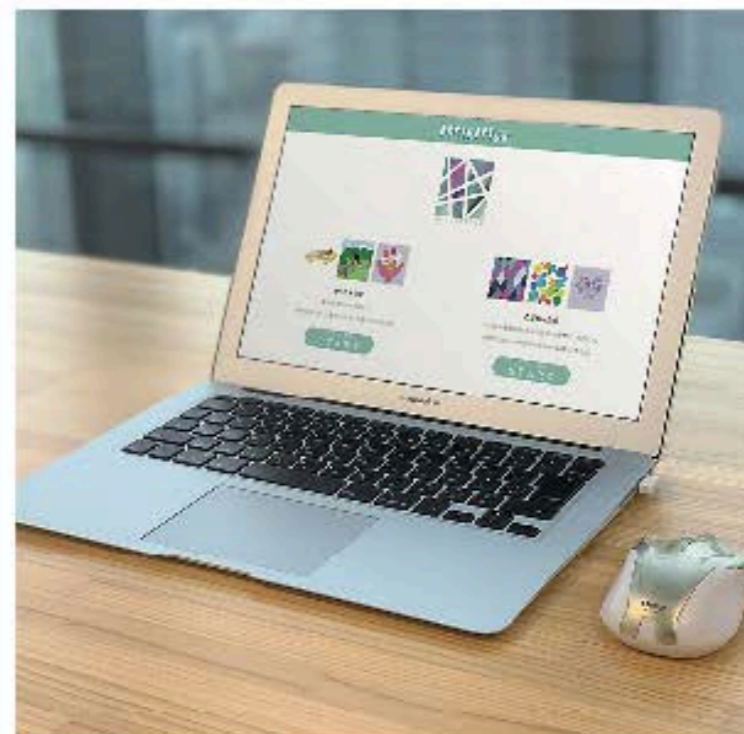
Abstractor ～印象を用いたパターン創出の提案～

Abstractor: Proposal of Pattern Creation Using Impression

プロのデザイナーでなくても、気軽にデザインやイラストを生み出し楽しめる時代。「自分だけの特別なデザインを作りたい」「デザインやセンスに自信がない…」そんな人に向けた、新しいパターン創出のオンラインサービスを提案します。

周りの人に自分らしい色や図柄などの要素を簡単なアンケート形式で回答してもらいます。それらを組み合わせることで、独自のパターンを創出します。それとともに、抽象化された“人から見た自分”の印象を知り、自身の新たな一面を発見する機会になり得ると考えます。

完成したパターンは、グッズ作成サイトでTシャツやスマホケースを作成、SNSのアイコンにするなど、自身のオリジナリティデザインを様々なアイテムに反映させて楽しむことができます。



大久保 萌

OKUBO, Moe

徳門 ～徳島鳴門観光地開発～

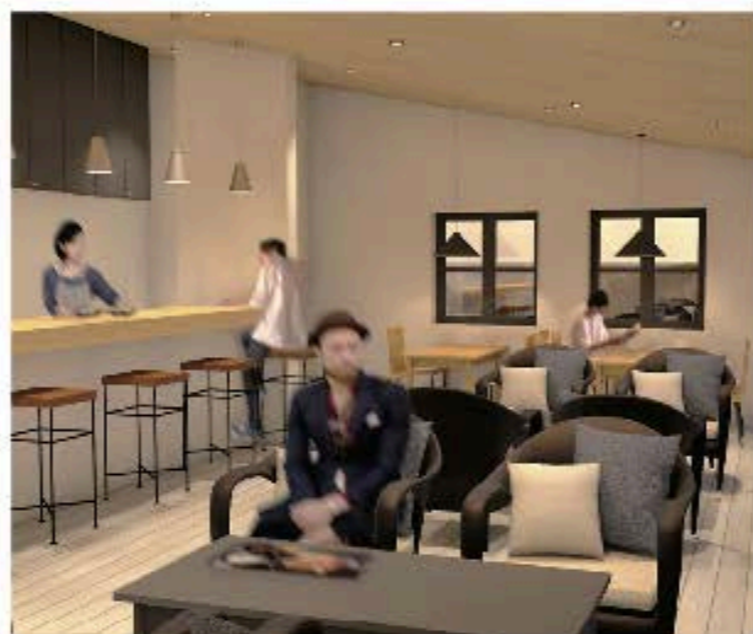
TOKUMO: Development of Sightseeing Spots in Naruto City, Tokushima Prefecture



徳島といえば、で思い描くものは何ですか？ たいてい
の人が「阿波踊り」といい、次に「渦潮」と言えばもう他
に思い描くものは出てこないでしょう。

徳島には漁業や林業、工業の幅広い分野において
独自の開発力が多くありながら、国内や海外から観光客
を呼び込むための企画力、宣伝力に弱点があることが
問題です。

この施設には地元の農産物や海産物を使用したレス
トランをはじめ、藍染体験や地元産木材で作られた
工芸品など、徳島の名産品をバッチリPRできる新たな
観光スポットを提案します。



岡田 優奈

OKADA, Yuna



forest inn — 有馬温泉における宿泊施設の提案 —

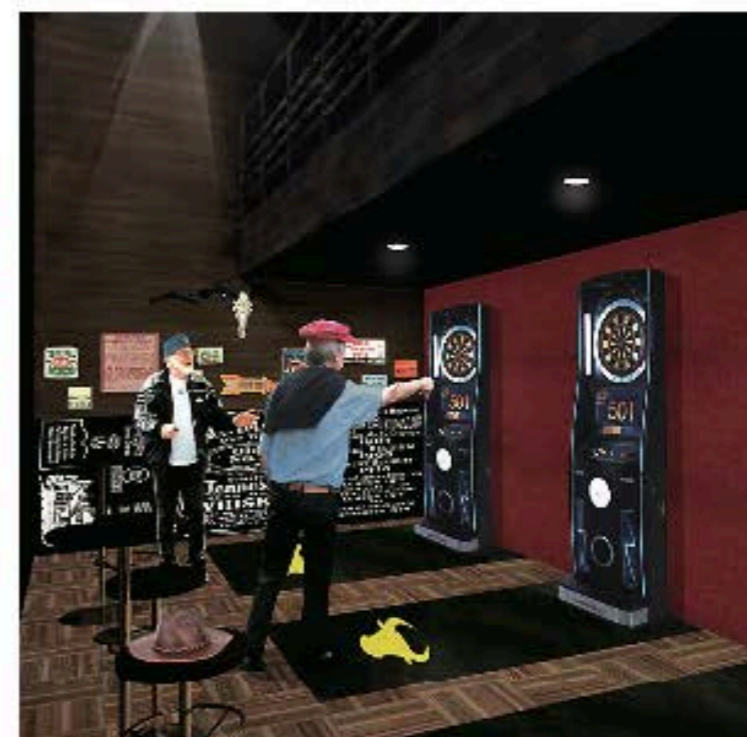
forest inn: Proposal of Hot Spring Inn at Arima Onsen

大阪、神戸からほど近い由緒ある観光地、有馬温泉に着目してみた。実際に訪れた際、湯本坂周辺は風情があり賑わいを見せているのに対し、山側に少し上がった有馬ます池周辺は特に情緒を感じる場所では無く、ただ寂しい場所であった。

そこで更なる有馬温泉の活性化をはかるため、エンターテインメント性の高い宿泊施設を計画した。

およそ600坪を擁する傾斜地には平屋建て、二階建ての独立した建物全18棟配置し、それら建物の各部屋にはダーツやカラオケに加え、バーテンダーを派遣できるバーカウンター付きの部屋など全9種類のスタイルを設定した。個性を持たせた各室では、女子会楽しむのもよし、恋人や夫婦で仲を深めるのもよし、家族でリフレッシュするのもよし。

また、大きく開かれた開口部からは、有馬の自然を近くで感じることができ、従来の有馬の観光に加え「楽し性」と「部屋の独創性」を高めた温泉宿を提案する。



喜多 広実
KITA, Hiromi

菜園が人をつなぎ健康を生み出す医療施設

Medical Facility where Vegetable Gardens Connect People and Create Health



計画敷地は京都市右京区嵯峨。周辺には山や田園、池などが広がっており、春夏秋冬によって景色も変わり風情ある場所です。私はそこに菜園のある地域密着型の医療施設を提案します。暗く辛いイメージのある医療施設ですが、病室からは美しい山や田園、入院患者と地域の人たちが運営する菜園を臨むことができます。共用スペースではお見舞いに来てもらった家族や友人たちと談話できるスペースを設け、病室に引きこもらないことを考慮しております。また、菜園では京野菜を中心に栽培し、そこで栽培された京野菜は、エントランス横に設けたイタリアンレストランで調理され、栄養バランスのとれた彩りのある美味しい料理を楽しむことができます。自分たちで野菜を育て、美味しく食べることで、健康的な精神や身体を取り戻す手助けになればと思います。健康志向が顕著な現代、入院患者にも愛される施設を目指します。



杉山 琴海
SUGIYAMA, Kotomi



都市の幻影 ～自然現象が織りなすランドスケープ～

Illusions of City: Landscapes Woven by Natural Phenomena

都市空間に突如として現れる自然現象。

「都市の幻影」と題し、インスタレーション的な手法を用いて行き交う人たちに非日常的な体験を演出する仕掛けを考えました。

設置場所は、日々進化し続けるウメダエリアの5つの場所に設定し、それぞれの場所の特徴をより印象づけることが出来るよう、各々に演出する装置を設定し、安全性を考慮しながらデザインを行いました。

- ①うめきた広場地下では若者の発信の地として雲の滝から流れる雲海の広がり表現。
- ②ヨドバシカメラ前の通路ではターミナル駅の象徴として、光跡をイメージした光線で演出。
- ③阪急バスターミナルでは高速バス利用者の玄関口として、動く浮世絵を光ファイバーを用いて表現。
- ④大阪工業大学ではクリエイティブの学び舎としてインスピレーションが溢れ出す表現。
- ⑤梅田芸術劇場前では、その時期にある公演に合わせた光ファイバーを利用したホログラムの様なシステムを用いて夜の街を彩る。



林 尚輝

HAYASHI, Naoki

ハニワノニワ — 仁徳天皇陵古墳周辺の観光地施設の創造 —

Haniwa_no_niwa: Creation of Tourist Facilities around Nintoku Emperor's Tomb



2019年に世界遺産として認定された百舌鳥・古市古墳群は、広大な市街地の中に存在し、長年の変わりゆく都市形成の過程を経て現代に息づく古墳群です。今回は、その中でも最大規模である通称仁徳天皇陵に隣接する大仙公園内を計画場所とし、古式日本の文化と現代とを繋ぐような存在となる施設を目指しました。日本発祥のカプセルホテル。そのカプセルホテルに展望台という機能を合わせ、街のシンボルとして愛され、国内外の観光客に親しんで頂けるような商業施設を考えました。また、ホテルでは、自転車のレンタルが可能で、公園内や古墳の周辺をサイクリングし、大仙公園の豊かな緑や敷地内に存在する日本庭園や茶室を自由に巡ることができます。この場所は堺市マラソンや自転車レースのルートになっており、参加者や観覧者にも利用して頂けると考えました。

菱本 涼香

HISHIMOTO, Suzuka



馬と星と私たち —野生の馬とのふれあいを生かした観光地の創出—

Horses and Stars and Us: Creating Sightseeing Spots through Contact with Wild Horses

私の故郷である都井岬は、宮崎県最南端に位置する岬で、270度の太平洋の展望が楽しめます。また野生の御崎馬が棲息することで知られ「御崎馬およびその繁殖地」として国の天然記念物に指定されています。この土地の特徴である野生の馬とのふれあいを観光資源とし、この辺境地の活性化をコンセプトに取り組みました。

まず、敷地中心に馬とのふれあえる乗馬体験施設を設けました。野生の御崎馬のオスはある程度の年齢になると群れを離れ生活するため、それらの馬を乗馬用として調教します。

さらに、空気が綺麗で、海岸線に沈む夕日や遮る明かりのないこの場所に展望デッキを設け、自然のブフネタリウムを楽しむことができます。

北側に計画したレストランには、あえて室内側にフェンスを設置し、まるで自分たちが自然の馬たちに見られているような感覚を想起させるユーモアを取り入れました。この貴重な場所が観光客を呼び込み、地域の活性化に繋がればと考えます。



村上 ころ

MURAKAMI, Kokoro

